宮崎公立大学生の今を伝える

MMU SHiP

エムエムユーシップ

特集１
MMU発！ 宮崎応援号

特集２
FRIENDSHiP × 大学祭
全力学生 祭の裏方に何があるのか

CONTENTS

留学体験記〜視界よしっ！ - ニュージーランド ワイカト大学
Real Voice - MMUの魅力は何？
学生生活大図鑑 - 大学生の食生活の実態
しっぽり語る〜男たちのホンネ
@MIYAZAKI - 宮崎の魅力を伝えるプラン提案！
CIRCLE DE GOSHiP - まちなかお花畑サークル
ミヤザキサブカルメッセンジャー - わたなべありささん
and more

今回の表紙　『MMU SHiP』創刊プロジェクト学生メンバー

宮崎公立大学（ＭＭＵ）の新広報誌創刊にあたり、公募により集まった初代学生記者。２０１１年１０月のプロジェクト始動以来、発刊にあたってのコンセプト・仕様の検討から、企画立案・取材・撮影・編集まで、制作に関わる全ての行程を職員と共同で進行。
未経験者が多く集まった中で試行錯誤しながらも、これから始まるMMUの航海の礎を築きました。

Miyazaki Municipal University Communication Magazine "MMU SHiP"

vol.01

特集

MMU 発！宮崎応援号
～大学生より愛を込めて

宮崎（かける）×
光画部
県外者
観光レディ

自然、食、そして人。多くの魅力を備えた宮崎。今回の特集では、大学生が感じる宮崎のいいところや、この地で頑張る大学生の元気をご紹介！ 「光画部（写真部）」「県外者」「観光レディ」の３つの視点からお届けします。

宮崎 × 県外者

県外出身にも関わらず宮崎に来て、
宮崎を大好きになった学生にインタビュー

進藤 真佐美さん
２年　英米文学ゼミ
大分県出身

盛り上げ役はチアリーディングにおまかせ！

私は応援部に所属し『まつりえれこっちゃみやざき』や学園祭等の学内イベントなどでチアリーディングを披露しています。ダンスに興味があって始めた部活動でしたが、様々なイベントに参加するうちに「見てくれる人を楽しませたい、元気にしたい」という思いが強くなりました。

そこで応援部は、地元サッカーチーム『ホンダロックSC』の試合で活躍を後押ししたり、新燃岳噴火や口蹄疫発生等の災害が相次いだことを受け、宮崎県立農業大学校に赴きパフォーマンスを通じて前向きに頑張ろうというメッセージを伝えたりしました。

宮崎を応援したい気持ちは、私自身が宮崎の人の温かさに支えられていることから生まれています。そして、応援に行った場所では、見てくれる人たちの笑顔に私も励まされ、人の輪が拡がります。今後も元気いっぱいのチアリーディングで宮崎を盛り上げます！

▲平成２３年度凌雲祭の様子。応援部は、数名を除いてほとんどの部員が未経験者で構成されるが、地道な努力により素晴らしいパフォーマンスを披露する。学年単位で選曲とダンスの考案を行い、その振り付けは全て部員によるオリジナル。平成２３年は和テイストの曲調にチャレンジする等、常に表現の可能性を拡げ続けている。

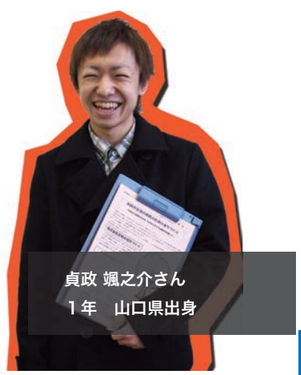
廣田 育子さん
３年　英米文学ゼミ
岩手県出身

街中をスタンプラリーして中心市街地の活性化！

凌雲祭（学園祭）の実行委員でイベント事業のやりがいを知った私は、Doまんなかモールスタンプラリー企画「ドマンナカクエスト」（以下、ドマクエ）の運営にも興味を持ち、参画し始めました。第５回「ドマクエ」では自ら志願しリーダーを務め、人生初の舵取り役に悩みながらも、約６００人の児童・生徒を動員し、なんとか成功。応援してくださった方々は、私が県外出身であることに驚かれましたが、県外者ならではの新鮮で勢いある風を吹き込めたと思っています。そして、この活動を経て「より多くの若い人々に、中心市街地に関心をもってほしい！」と強く考えるようになりました。

また、商店街の方々や学生ボランティアとの一体感のある共同作業を通じ、「人を支えるのは人なんだ」と実感。今後とも、多くの仲間と協力し合い、身近な環境に活力を与えられる取り組みを作り上げていきたいです！

▲「ドマンナカクエスト」の運営スタッフ。毎回大好評を博すこの企画は、参加する子ども・商店街の人々・ボランティアの学生が楽しく交流をできる名物イベントに成長。あまりの人気ぶりに、運営に影響を及ぼす程の大勢の参加者が集まっていたことから、廣田さんがリーダーを務めた第５回では、安全なイベントを目指して参加定員を設けるなど、運営面での整備が行われた。



貞政 颯之介さん
１年　山口県出身

宮崎の郷土と文化について学んでいます！

もともと日本史に関心があったのですが、偏った分野ではなく、英語や政治学、国際関係など幅広い科目が学べることが魅力で選んだ宮崎公立大学。生まれ育った山口県を離れて生活をすることを決断し、宮崎県を第２の故郷にしたいと考えていた中、コーディネート科目の「宮崎の郷土と文化」では、様々な角度から宮崎に関する話を聞けるということで、宮崎での生活をより充実させられればと思い受講しました。

県知事や市長自ら行っていただいた講義や水と空気に関する身近な話題等、２カ月にわたってバラエティ溢れる講座を受講しましたが、その中でも刺激的だったのが、やはり「古事記・日本書紀の比較」に関する講義。これからの大学生活では、歴史学を専攻して、宮崎の歴史への理解を深めていきたいと考えています。

▲宮崎県内の高等教育機関が、県の高等教育全体の質的向上と地域の教育・学術研究の充実・発展を図り、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することをめざして設立した「高等教育コンソーシアム宮崎」。この事業の一環であるコーディネート科目「宮崎の郷土と文化」は、全１５回の毎回講師が変わるオムニバス形式で実施された。

宮崎 × 光画部

光画部が感じる宮崎らしさ
感性光る独特の視点をご紹介します

Photo 01

映画『僕たちは世界を変えることができない。』の出演者を招くキャンペーン企画に参加したいという一人の友だちの願いを叶えるべく、応募する写真を私が撮影することに（笑）。 夏休み期間にも関わらず、彼女の一声で、所属ゼミの有馬教授を含め一瞬でこれだけの仲間が集まってくれました。この「人の温かさ」こそ、私の中での宮崎。ここに写っている方全員が宮崎出身というわけではないのですが、優しさと元気に溢れた一枚が撮れたと思います。宮崎は人が優しくなれる場所なんですね。

Photographer>> 吉田 季穂子さん
３年　American Studies ゼミ

Photo 02

MMUから宮崎県総合文化公園にいく道沿いにある家で飼われている犬の写真です。人懐っこくてかわいいのでこの道を通るときはいつも撫でちゃいます。すぐに近所に住む子どもや通りかかった人も集まって気さくな飼い主さんと一緒に楽しいひと時になります。このようなふれあいは宮崎に来るまでは体験したことがなかったので、とても嬉しくって。人との距離感の近さや人の温かさ。これが私の中での「宮崎」です。

田中 靖子さん
４年　メディアとジェンダーゼミ <<Photographer

宮崎×観光レディ

特別座談会
観光レディが感じる宮崎の魅力

平成23年12月現在、MMUには、宮崎県内の観光レディが4人在籍しています。今回は、その4人に、宮崎の魅力について多いに語っていただきました。

姉妹都市と協力しながら宮崎をアピール

竹平（以下、竹）　みんなで集まるの、初めてだねー。

長友（以下、長）　ですね！　皆さんがどんなことをしてるか気になってました！

吉川（以下、吉）　私はまだレディ歴が短いから、たくさんのことはしてないです。でも、博多駅でのキャンペーン活動や島津発祥祭に参加しました。

榎木田（以下、榎）　そうなんだ！　私のレディとしての仕事は広島カープのキャンプの歓迎から始まったよ。そして私も、「九州キャラバン」で福岡とか鹿児島を3日間かけて訪れたなー。

長　私たちも福岡に行ってキャンペーン活動しましたよね。

竹　そうだね。キャンプの歓迎なら宮崎市も同じだね！　ソフトバンクホークスと読売ジャイアンツをお出迎えしたよね。

長　はい。ホークスのスペシャルゲームにも行きました。他にも、熊本の火の国まつりや奈良の橿原の物産展等、様々な機会がありますね。

吉　その物産展は市内のデパートであるやつですね。でもなんで橿原市なの？

竹　宮崎市が橿原市と姉妹都市なんだ。私も去年サンシャインレディとしてお手伝いしたよ！

榎　サンシャインレディと観光親善レディってどう違うの？

竹　観光親善レディは、宮崎市観光協会が今年から始めたもので、昨年サンシャインレディだった私たちが今年のレディたちの助っ人をするんだ。

吉　へ〜。じゃあ仕事も同じなんですね。

長　そうですね、基本的には宮崎のアピールが主ですね。「まつりえれこっちゃみやざき」や「神武さま（神武大祭）」等に出演するんです。先輩は他にどんなお祭りに参加したんですか？

吉　私は地元の郷土料理コンテストや焼き肉カーニバルにでました。島津姫の格好をした時、天気悪いのにたくさんの人が見に来てくれたのには感動したなー。えりなちゃんは？

榎　お祭りっていうか沖縄に行って大会に参加したよ、大綱引きの（笑）　迫力あったなあ。

竹　え、沖縄まで行ったの!?

榎　うん。実は、日南市と姉妹都市なんよ。大会にはいろんな県の姉妹都市のレディさんが来てて、夜は交流会があったよ。

長　その交流会は、ずばり自慢大会ですね（笑）

竹　絶対お互いのお国自慢になっちゃうよね。私は、いつでも宣伝できるように宮崎名物の食べ比べしてるよ。いつでもチキン南蛮やレタス巻きのおすすめの店を紹介できるようにね。

長　わたしもです、特に冷や汁！　濃い味が好きなので、おいしい所探し歩いてますよ！

榎　みんないっしょだね。私は、鉄肥城下町で街歩き・食べ歩きするよ。地元の名物だったら「カツオ炙り重」が一押し！

吉　日南のカツオは有名だもんね。都城は自然がすごくいいですよ。関之尾の甌穴群は国指定天然記念物だし、母智丘公園は日本さくら百選に選ばれてます。

竹　宮崎はマリンスポーツも有名だよ。わたしも体験させてもらったな。

榎　マリンスポーツ、いいよね。地元の海がきれいなのは自慢だよね。

育った場所のことを知りたいし、伝えたい

長　やっぱりみなさん詳しいですね、さすがレディ（笑）。ところでみなさんはなんでレディになろうと思ったんですか？

榎　私は、日南のイベントを通じて人との繋がりを大事にしようと思ったことがあって。そんなきっかけをくれた日南のことをもっと知りたいし、知ってもらいたいって考えて、挑戦しようと思ったから。わたしがレディになって日南をアピールしようって思ったのが理由だな。

吉　私は、将来の夢が都城の市役所で働くことだったんですけど、自分が都城について知らないことがまだまだあるので、もっと深く知りたいと思うようになりました。そして、市役所のインターンシップで、その気持ちがさらに強くなって。その時にレディの応募があったから、ちょうどいい機会だと思い立候補しました。

長　やっぱりみなさん、地元ラブですね。

竹　そうだね。私もずっと宮崎に住んでて、宮崎のこと大好きだし。私の場合は、もともと人前に立つのが好きだったから、テレビやお祭りで見かけるレディさんが気になってたんだ。大好きな宮崎に何か恩返しがしたいと思ってる時に、レディの募集があって迷わず応募したよ！

長　私の場合は、中国に異文化実習に行って現地の子に案内してもらったのがきっかけです。細かく教えてもらってすごく楽しかったので、宮崎に来てくださった方にも宮崎の良さを堪能してもらいたいと思うようになりました。

竹　宮崎のいろんな面を知ってもらいたいね。とえばキャラクターのミッシちゃんとか（笑）

長　三つの「シ」…自然・食・神話ですよね。あと県外に行くと人の良さも褒めてもらえるよね。

竹　うん、うん。他県で活動してる時、そういう声聞くね。レディやってよかったなって思う、直接そういう事を聞けてうれしいもんね。

長　確かに県外に出て気づくことって多いですね。青島が新婚旅行で有名だった時に観光に来られた方は、また行きたいって言われてましたよね。

吉　私は観光パンフレット配りながら、おすすめスポットを説明したり名物を紹介したりします。県外の方と交流を持てるのは楽しいですよね。

榎　口蹄疫や新燃岳の噴火があったから、博多でいろんな方に励ましの言葉をかけて貰えたのはすごく嬉しかった！

竹　元気もらえるよね！　レディとしてもっと頑張ろうって気持ちになったなあ。

吉　観光協会の方もすごいですよね。宮崎に対する情熱というか愛というか。

長　本当に忙しそうだけど、宮崎が大好きっていうのが見てて分かりますよね。

竹　そうだよね。私もいつかは観光協会で仕事してみたいな。自分が支えてもらったように、レディさんのことを後ろから支えていきたい。

榎　うちもずっと地元を宣伝できる人でありたい。どこにいてもやっぱり日南が大好きだと思うし、成長するきっかけを貰ったし！

吉　私はまだレディのお仕事は少ししか経験してないから、これからの任期中にいろんな経験をしたいです。都城市役所に入って、レディや宮崎のための活動をしたいな。

長　そうですね。本当にふだん会えないような方に会えるし、仕事自体も楽しいですもんね。自分たちの活動を通じて宮崎のことを知ってもらえるのはやりがいを感じますね。この経験を活かせる仕事をしたいな。

竹　ここまで宮崎が好きなのはやっぱり人がいいからだろうね。

榎　うん、それは思う！　皆あったかいもん。

吉　挨拶したらみんな返してくれますよね。毎日気持ちいいですよ。

長　あと、宮崎弁！

榎　わかる！　宮崎弁てっげ（とても）いいよね！

竹　うん、うん。私も方言大好き〜。宮崎弁って言葉のあたたかさがあるよね。

吉　優しくて朗らかな人が多いし、宮崎はほんとに過ごしやすいよね。

竹　そうだね。みんなの話聞いてて、やっぱり宮崎っていいなって思う。歴史もあるし、自然豊かでおいしいものもたくさんあるし。県内での違いもけっこうあるけど、どこにいっても楽しめるよね。みんな気さくだし、本当に人がいいもん。宮崎の県民性は自慢だね。

榎　そうだね、ほんとにそう思う！

長　あ、そろそろ講義始まる時間ですね。

吉　次、授業あるんだ？

長　はい、「宮崎地域研究」受けてきます！

皆　なんとタイムリー！（笑）

■記事：志垣 賢次（3年 広告コミュニケーションゼミ）、坂上 卓月（3年 国際関係論ゼミ）

日南サンフレッシュレディ（日南市）
榎木田 恵里奈さん
3年　スポーツ・健康科学ゼミ

▲広島カープキャンプ

宮崎サンシャインレディ（宮崎市）
長友 祐希美さん
2年　広告コミュニケーションゼミ

▲鹿児島県「おはら祭り」

宮崎観光親善レディ（宮崎市）
竹平 晃子さん
3年　国際関係論ゼミ

▲長崎ランタンフェスティバル

都城観光レディ（都城市）
吉川 萌江さん
3年　行政論ゼミ

▲焼き肉カーニバル

留｜学｜体｜験｜談

世界へ漕ぎだせ！

視界よしっ！

YOSHIP!

vol.01

ニュージーランド／ワイカト大学

New Zealand / The University of Waikato

interview

佐藤 裕香さん

4年　音声学ゼミ

ニュージーランドのワイカト大学に公費留学をした
佐藤裕香さんに、その貴重な体験談を語っていただきました

■大学データ　国立ワイカト大学
所在地：ニュージーランド　ハミルトン市
開　学：1964 年
学生数：約 13,000 人
学部数：7 学部（91 学科）
MMU とは、2000（平成 12）年 9 月 27 日に学術交流協定を締結。

記者　なぜ留学をしようと思いましたか？

佐藤　留学を志した一番の理由は、自分の視野を広げるためでした。また、交換留学として、ワイカト大学の学部の授業を受けることができ、それもこの留学の魅力の一つでした。

記者　どのような準備をしましたか？

佐藤　ゼミの学習と、２年生の１２月頃からは IELTS* にも取り組みました。また、機会を見つけては、留学経験のある先輩方に留学の体験談などを聞かせていただきました。他には、自分の関心ごとに対しての知識を深めるために読書もよくしていました。

＊ IELTS（アイエルツ）…海外留学や研修のために必要な英語力を証明するテスト

記者　どのような経験ができましたか？

佐藤　最も楽しかったことは、世界の様々な国から来ている学生と出会い、大切な友人ができたことです。偶然が重ならなければ出会えなかったであろう友人達とたくさんの思い出が作れたことは、きっといつまでも忘れられないと思います。
反対に辛かったことは、言語･食生活･コミュニケーションの取り方の違いなどが原因で起こったホームシックでした。海外で暮らすということはストレスも多く、慣れるまでは本当に大変でしたが、先生・家族・友人など多くの方に支えられてホームシックを乗り越えることができました。今の自分があるのは、自分を支えてくださる皆さんのご協力があるからなのだということを心から実感し、皆さんへは感謝の気持ちでいっぱいです。

記者　どのような点で成長できましたか？

佐藤　ひとつは、以前よりも勉強に集中できるようになったことです。留学当初、英語で授業を受けるのは本当に大変でした。先生が何を話されているのかがほとんど分からず、質問しても回答が聞き取れないという状況で、非常に戸惑ってしまいました。予習や課題、試験勉強などすべてが英語というのは、かなりの集中力を必要としたので、随分と集中力が培われたのではないかと思います。
もうひとつは、考え方がより柔軟になったことです。留学生の多いワイカト大学では、ニュージーランド人のみならず、世界各地の学生とコミュニケーションをとる機会がたくさんありました。その中で、国ごとの文化や使用言語によるコミュニケーションの違いには驚きや戸惑いがたくさんありました。そのような異文化交流を通して、物事をより広く捉えることができるようになったと思います。

記者　今後どのようなことをしたいですか？

佐藤　卒業論文作成や後輩の皆さん後輩の皆さんに私の経験を伝えることをもって、宮崎公立大学・ワイカト大学で学んだことの集大成にしたいと考えています。また、将来は、英語を活かせる仕事をしたいと思っています。成長とともに目標が変わることもありえるので、更に意欲的に自分のしたいことを探していきます。

記者　在学生にメッセージをお願いします

佐藤　留学のことについてなど、何でも気軽に話しかけて下さい。皆さんが目標を成し遂げるためのお手伝いが出来たらとても嬉しいです。色々と語り合いましょう！

■記事　吉松 みなみ（2年 教育学ゼミ）、黒木 れい奈（1年）

取材中のこぼればなし　▼

2位の写真は研究講義棟の7階で撮影したのだが、そこのラウンジから見える景色は素晴らしかった。夜景スポットになるかも？

今回のテーマ

MMU の魅力は何？

MMUってどんなところ？…と気になる人も多いはず。そこで、学生の目線から見た魅力や良いところを聞いてみました。普段あまり聞けないMMU学生のリアルな声をどうぞ。

MMU 学生の生の声を伝える

MMU MEMBERSHiP

REAL VOICE

第1位　126票

街に近いと買い物や外食に行きやすく便利

街に近いので、美味しいご飯を食べに行きやすい。特に僕は県外出身なので宮崎の美味しいものを食べられるのは幸せです。

鍋谷 直仁さん
3年　Language and Society ゼミ

第2位　93票

自分の将来に役立つ知識を得ることが出来る

リベラルアーツに基づいて、様々な分野での学習が可能になっています。自分の将来にも必要な力を身につけることができます。

河野 瑞紀さん
2年　Language and Society ゼミ

第3位　67票

仲が良いと大学生活も楽しくなる

小規模な大学だからこそ友達が作りやすいことが魅力。部活やサークルでも先輩・後輩関係なくみんな仲良しですよ。

山田 実愛さん
2年　Language and Society ゼミ

以下のアンケート結果

4位	校舎がきれい	62 票
5位	先生との距離が近い	40 票
6位	ゼミの活動が充実している	39 票
7位	留学制度が充実している	38 票
8位	めんどうみがいい	32 票
9位	英語の授業が充実している	23 票

アンケート分析

規模は小さくても魅力は満載！

この結果から「キャンパスの立地」が、大学生活にとって重要な位置づけであることが垣間見えます。インタビューにあったように、食の面だけでなく、アルバイト先を探したり通勤したりするのにも便利なようです。また、２４時間営業しているスーパーや百貨店、公共機関、文化施設等あらゆるものが近いのも魅力的です。１位以下の内容を見ても、本学が実に多くの魅力を持っているかがわかります。ランクインはしていませんが、「女子がかわいいとこ」や「おしゃれな人が多い」という意見もありました。

■記事　土井 美樹（3年 情報社会論ゼミ）、松田 成美（2年 Language and Society ゼミ）

FriendSHiP ×大学祭

全力学生

祭の裏方には何があるのか？

2日間で5,800人もの来場者が訪れ大盛況に終わった宮崎公立大学の大学祭。その裏方には、280人の学生実行委員の半年間に及ぶ準備がある。今回は、学生実行委員のトップとして組織をまとめてきた実行委員長森茂さんと、300万円規模の予算を一手にやりくりしてきた執行部会計倉永さんの半年間に焦点を当てた。

第19回凌雲祭執行部実行委員長
森茂 美樹さん
2年　国際関係論ゼミ

1　森茂さんが祭と出会うまで

森茂さんは都城市出身。「なぜ？」と思ったことを徹底的に考え抜く性格で、高校時代も「なぜ制服を着なければならないのか」「なぜ東南アジアには貧困問題が生じるのか」と、校則から国際関係まで常々疑問を抱えていたという。

そんな彼女が大学1年生の時に多大な刺激を受けたのが、宮崎市中心市街地活性化を目的に設立された商店街「Doまんなかモール」（本誌3ページ参照）で活動する大人や、学生ボランティアの先輩たちだった。「とにかくアツい人たちの集まりなんです。大人や大学生が真剣な表情で夢を語り合い、自分たちの街を盛り上げるために様々な企画を考え出している。彼らの楽しそうな姿を見ていると、自分も主体的に行動できる人間になりたいと思うようになりました」と彼女は言う。

そんな時に、その年の大学祭実行委員長を務めた先輩から「来年度の実行委員長にならないか」と誘われた。自信がなく迷ったが、「Doまんなかモール」の大人や先輩のようにアツく真剣になってみたいという気持ちに押され、祭の中心に飛び込むことにした。

2　倉永さんが祭と出会うまで

倉永さんは新富町出身。「いつも一歩引いていた」と振り返る高校時代は、部活動には参加せず図書館でこつこつ勉強しながら過ごす日々だった。倉永さんの高校では大半のクラスメイトが大学に進学するため、彼女も周囲に勧められて地元の大学である宮崎公立大学に入学することに。一方で、「自分は本当に大学に行きたいのか、周囲に流されているだけなんじゃないか」と自問していたという。

大学入学後、1年生の時に転機が訪れる。2年生の先輩が中心となって活動している大学祭実行委員の執行部が、会計のサブリーダーを募集しており、迷わず立候補して引き受けた。「その時、私は人の上に立つことが嫌いではなく、今まで立とうとしていなかっただけなんだな、と思いました」

みんなで1つの大きな祭を作り上げるために、みんなで一生懸命お金を集めて、どのように使うかを必死に考える――会計という仕事に自分の適性とやりがいを発見した。その年の大学祭が終わった後、来年度の執行部会計を務める決心は固まっていた。

第19回凌雲祭執行部会計
倉永 千夏さん
2年　行政論ゼミ

3　祭の準備

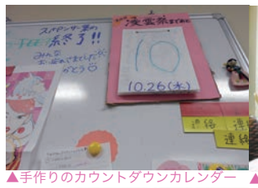
大学祭実行委員会は、その中心となる執行部の下に、ウェブサイトやパンフレットを作成する広報企画局、数多く出店される屋台を取りまとめる出店局、駐車場管理やゴミ処理を担当する環境局、正門アーチや校舎に掲げる横断幕等を制作する装飾局、数々の野外企画を担当する屋外企画局、定評あるお化け屋敷の企画運営と校舎内の施設貸出を取りまとめる屋内企画局、前夜祭・中夜祭・後夜祭を企画運営する前中後夜祭企画局、大学祭の花形であるステージイベント全般を企画運営するステージイベント局の1部9局で構成される。

執行部の実行委員長・副実行委員長・会計とそれぞれの局の局長・副局長は「幹部」と呼ばれる要職で、各部局の業務責任者として委員全体の重要案件を協議する。その人選は、前年度幹部を務めた先輩からの任命により決定される習わしだ。

5月に初めて幹部が一堂に会したとき、森茂さんは不安感に襲われた。同じ2年生とはいえ、全く話したことのない顔ぶれがそこに並んでいたからだ。当然会話もはずまない。「これから半年間も一緒に仲良くやっていけるのだろうか？」

6月～7月は、祭のテーマや企画を固めて予算を策定する仕事が中心となり、毎週会議を開催して多くの案件をスピーディーに決定していかなければならない。案の定、会議の場に集まる幹部たちはギクシャクとした雰囲気に満ちている。意見がぶつかった時も、本音を言わずに我慢している様子が伝わる。森茂さんは実行委員長としてうまく会議を進行できずに落ち込む日々が続いた。

宮崎の暑い夏がようやく終わるころ、幹部会議の雰囲気が和気あいあいとしたものに変わってきた。学生実行委員の活動の場である学友会室にはいつも誰かがいて、笑いながら作業している。大学祭が終わるまでの期間、森茂さんと倉永さんは1日の大半を幹部たちと学友会室で過ごした。「この準備期間が永遠に続けばいいのに」と感じたという。



▲手作りのカウントダウンカレンダー

▲学友会室での日常風景

▲幹部会議の風景。皆真剣な表情

▲屋台の設営指示を出す出店局長

▲「みんなの家」での作業風景

▲装飾局による横断幕の作成現場

4　祭を終えて

2人は祭を通じて何を得たのだろう。

「組織を動かす難しさと、組織で助け合う感動を知ったこと」と森茂さんは言う。「トップはどんと構えて指示を出さなきゃいけないとわかっているんですけど、みんながんばっている姿を見ると我慢できずに身体が動いてしまった」と反省点も口にする。「でも、みんなが笑顔になってくれたことが一番の喜びです」。彼女がアツく真剣に取り組んだ先に見えたものは、祭に関わってくれた様々な人たちの笑顔だった。

倉永さんは、「何でも言い合える仲間との関係性」を挙げる。「大学祭実行委員で集まったのは、もともと知らない学生ばかり。同じ目的を共有して全力で取り組む大学祭での経験がなければ、知り合うことも議論し合うことも、そして理解し合うこともなかった。きっと私はひっそり大学を卒業していたと思います（笑）。お金のやり取りは厳しさを伴う。一歩引いていたままではできない仕事だ。厳しい意見や本音を言い合うためには、一歩も引かずに相手にぶつからなければならない。その結果が、彼女が得た「何でも言い合える仲間たち」だった。

学生をアツく真剣にさせて、多くの人たちを笑顔にして、本音で学生同士がぶつかり、何でも言い合える仲間を生みだす。そんな舞台が、祭の裏方には存在する。

今でこそ仲良しの2人だが、実行委員の仕事をするまではほとんど話したことがなかったそうだ。森茂さんの倉永さんに対する第一印象は「自分の意見をあまり言わない。女の子って感じ」。倉永さんの森茂さんに対する第一印象は「言いたいことを言う、我が道を行くイメージ」。

対極的な性格の2人がたまたまめぐり会い、かけがえのない仲間になったのも、祭の裏方でのことだった。

▲2日目午前に行われた、２０１１年夏ハモネプ大会優勝者である現役大学生アカペラグループ・グラコロンのステージでは、会場が超満員に。多くの人がその素晴らしいハーモニーに魅了された。倉永さんも、メンバーからちゃっかりＴシャツにサインをももらったのだそう…。

冒頭でも紹介したとおり、大学祭当日は定員800人の大学の敷地に2日間で５８００人の来場客が訪れ、大盛況と感動のもとにフィナーレを迎えた。

7月末に定期試験が終わり、8月からは運営資金集めのための営業活動が始まる。大学祭の財源は、その約3分の1を地元企業の協賛金及び大学祭パンフレットの広告料金に依存しているため、営業活動の結果が大学祭の成否を決すると言っても過言ではない。学生実行委員たちは地元企業に電話でアポイントを取り、慣れないスーツに身を包んで灼熱の街に飛び出していく。最もハードな仕事の1つである。

執行部は営業活動の期限を8月末に設定したものの、お盆を過ぎても予定額の3分の1も集まらない。お金が集まらなければ企画の変更やスケールダウンを余儀なくされる。森茂さんと倉永さんは「各局の活動の進捗状況も見えなかったし、大学祭自体が成立しないかもしれないという恐怖もあった。この時期が一番苦しかった」と口をそろえる。

また、各局の幹部も苦しんでいた。大学は8月から夏休みに入るため、部局員の集まりが悪くなる。営業活動に加えて局独自の仕事もあるのに、人手が集まらない。やる気のある人間となない人間の温度差が如実に表面化してくる。

しかし、そんな時だからこそ、幹部たちの信頼関係は深まったという。自分と意見の合わなかった人間が、全力でがんばっている様子が伝わってくる。「祭を成功させたいという気持ちは同じなんだ」とわかった時に、バラバラだった心が1つにつながった。みんなでがむしゃらに頑張った結果、予定を上回る額のお金が集まった。

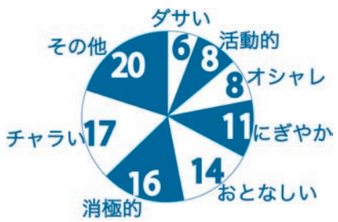
■記事　利行 靖子（3年 ジャーナリズム論ゼミ）

しっぽり語る。
SHIPPORI

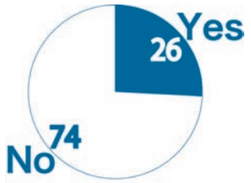
～男たちのホンネ

これは、MMU 男子学生の葛藤と、熱き思いの記録である。下記のように、女性たちの評価は惨憺たるものだった…。
しかし、我々「野郎」は負けていられぬ。本誌冒頭の特集に登場する美女たちには負けられぬのだ！

MMUの男子の印象は？

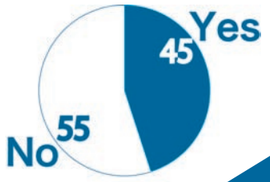


MMUに理想の男性はいる？

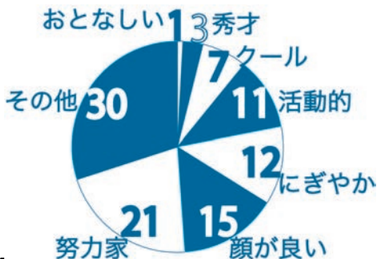


MMUの男女の人数と比率

MMU内で恋愛を考えたことがある？



理想の男性像は？



男子が少なくて困ったことは!?
1. 出会いがない、理想の異性がいない！
2. 力仕事が大変！
3. 女子力が低下しちゃう！

男子に喝！
1. 男同士で群れるな！
2. 男らしく、積極的になって！
3.…頑張れっ！

●MMUの男女比は女性が8に対して、男性が2という状況である。しかし、「野郎ども」は、一般的に想像されるような「いいなあ」という状況にはなっていない。では一体、「野郎」は、どのような生活を送っているのだろうか。本企画では、このアンケートに基づき座談会を実施。参加してくれたのは4人の勇者たちだ。彼らならば、「野郎」を賞賛し、かつ女性との相互理解を図ってくれるだろう。

座談会　インタビュアー　4年　堀田 啓太

○群れって・・おいおい、勘弁してくれたまえ。

堀：さあ、アンケート結果をみて、皆さん、いかがでしょうか？

甲：人によるんじゃないですかね（笑）。

一同：最初からそれいっちゃう（笑）？

甲：冗談はさておき、まずこの「群れすぎ」って、身内で楽しむことやっていたら、「群れすぎ」って見られるのかもしれないですね。

宮：それはあるかも。男子には、一匹狼としての面白さも要求してるってことかな。でも実際のところ群れてもそれから何ができるかってことですよね。

田：集団作らないと生きていけないんだよね、人は。いつだってね。

○絆創膏を探せ！

堀：女子が多くていいね！って他大学で言われますよね。それに関して、皆さんに聞いてみたくて！

甲：うーん、そんなことないですね（笑）。僕たちが理屈っぽいから「メンドクサイ」って女子から言われるし（笑）。

宮：入学後すぐに、とにかく男の友達探しましたもんね（笑）。

堀：「女子大みたい」って意見も多かったですよ。

宮：女子大って、女子同士だからもっと気を抜いてると思ってた！　ジャージ登校みたいな（笑）。学来ると、怒られます（笑）。

田：「気が楽」とか「女子力の低下」っていうのもあるよ。「女子力」ってどういうこと？

上：絆創膏持っているかどうかじゃないですか（笑）？　持ってる人少ないんですよ！　だから僕、持ってくるようにしてます（笑）。

○「生息地：居酒屋」、「属性：酔いどれ」

宮：大学は、高校とは違う空間で自由に振舞えると言うか。このアンケート結果だと、理想の恋愛というか、ドラマ的なものを男子に求めてるのかもしれないね。

甲：そうですね、ドラマ的な「遠くの薔薇」より、僕たち「近くのタンポポ」を大事にしてほしい。

一同：今のカットで（笑）。

田：うちは理想の大学ではない、ということ？　俺はいい大学だと思うけど。俺たちだけ？

甲：たぶん（笑）。男子は不器用だから、華やかさよりも、泥臭くするしかないんですよ。結果的に女子の理想からは遠のく（笑）。

上：僕たちの本質的な「良さ」だと思っているものは、女の子にとっては「良くない」、と（笑）。

田：男子の楽しむ場所がさ、大学ではないんじゃない？　居酒屋とかさ（笑）。

宮：僕たちは女子がいないところでしか輝けない（笑）？　社会人じゃないんだからさ、うちの大学だからこそ、ってつきあい方が欲しいよね。飲み会でつぶれたり、議論したりして。僕たちはそれが、「良さ」だって思いますね。

堀：じゃあ、まとめますと男女の枠取っ払って、一緒に飲めば、何か見えてくる、ということ（笑）？

宮：そう、それで本質がみえるってことね、俺たちの輝きがね（笑）。で、酔っぱらった女の子にこういうんだ、「僕たちのこと見てますか？」って。

田：大丈夫、みんな見てるよ。女の子じゃなくて野郎がだけど（笑）。

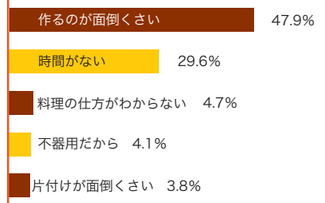
宮崎公立大学現役学生 363 名に聞きました

大学生の食生活の実態

Q.3 自炊をしない理由は？

Q.1 でいいえと答えた学生対象

面倒くさい、という直球な回答が大多数を占める

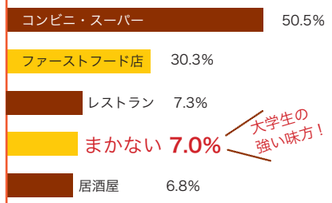


大学生の本音が率直に反映された結果となった。それとは対照的に「時間がない」という意見にも多くの賛同者があり、2位にランクイン。MMU はゼミ活動等にとても力を入れているため、勉学に励むあまり、時間がなくなってしまうという結果につながっていると…考えよう。

Q.2 食事はどのように準備しますか？

Q.1 でいいえと答えた学生対象

外食とは言っても自宅で？学生ならではの回答も



コンビニやスーパーの惣菜と、ファーストフードがダントツで支持を得ているが、MMU の周りにはコンビニやスーパーが多いことから納得できる結果となった。そんな中、特筆すべき点として、アルバイトの「まかない」という意見がレストラン利用割合に匹敵していることが挙げられる。

Q.1 あなたは自炊をしますか？

一人暮らしの学生対象

半数に近い学生が自炊をしないことが判明

一人暮らしをしている学生を対象に、自炊を行っているかを聞いた結果、「いいえ」と答えた学生が 42%と、半数に近い結果を得た。「自炊が一番のお金の節約になる」と言われるが、自炊をしない学生は一体どうやってご飯を準備しているのだろうか。

自炊派のがんばる学生にインタビュー！

私が自炊するワケ

一工夫のある料理作り
有村 さやかさん　2年
Language and Society ゼミ

有村　はじめは食費を浮かせるために自炊を始めました。日頃よく見るクッキングブログや実家の料理の真似をして作っていますが、自分もブログに載せるようになって料理することが楽しくなってきました。それも自炊をする理由の1つです。

記者　料理作りと同様に、お菓子作りも好きだと言う有村さん。得意なのは、レアチーズケーキとアップルパイだそうだ。失敗することもあるようだが、その失敗がおいしい料理作りにつながっていくのだろう。

メイン料理は、ブログのレシピを参考にして作った料理ということ。一見肉じゃが？と思ったが、牛ではなく鶏肉を使用している。卵焼きを巻く姿は、まさに料理人のようだった。

できる女っぷりに愕然
河野 奈菜さん　3年
情報社会論ゼミ

河野　彼氏の胃袋を掴んでおくためです（笑）レパートリーを増やしたいというのも理由の1つですね。月に1万くらいで済みますし、かなり節約にもなりますよ～。

記者　もちろん私の胃袋も掴まれちゃいました。しかも一カ月で1万で収まるなんて…

▼あまりの女子力の高さに凹みまくる記者の土井　…無念

本日の料理のポイントは「煮込みハンバーグにしたことで火を通す手間を省いたこと」と話してくれた河野さん。自炊生活も3年目だけあって、手際の良さもさすが。あまりのできる女っぷりに、記者は愕然としました。

この日のメニューは煮込みハンバーグとキャベツのスープ。「お母さんか！」と突っ込みたくなるほどの手際の良さと、美味しさにただただ感心させられるばかりでした…

■記事　土井 美樹（3年 情報社会論ゼミ）、松田 成美（2年 Language and Society ゼミ）

アンケート番外編
最高の贅沢と思う料理は？

寿司 1位　

焼肉 2位　

寿司と焼肉が圧倒的人気！　特に肉料理は焼肉だけに関わらず幅広い支持を得ているようだ。なお、「お母さんの作ったご飯」という回答も多数あり。心温まる答えをありがとう！

plan 01

駅ナカ図書館「L-station」

本を借りて電車に乗る、これが新しい駅のカタチ

※写真は合成イメージです

駅が変わると、街も変わる

想像してほしい。電車の待ち時間に駅の一角にある書架から好きな本を借り、駅内のソファや椅子でゆったり本を読んで過ごすことを。図書館のように緩やかな時間が、駅全体に流れているのを。宮崎駅で行った独自調査から、利用者の多くが電車の長い待ち時間に不満を抱いており、より快適な駅空間を求めていることがわかった。

これを受け、**駅全体にソファ席を充実させ、読書を愉しめる快適な駅づくり**を提案する。私たちは駅と図書館の融合施設、L-station と呼ぶ(L=Library…図書館、Learn…学ぶ、Lead…導く の意)。

貸出対象は３０００冊に限定し、頻繁に目録を変更。話題の本からベストセラーまで注目度の高い本を揃えることとする。さらに、誰でも気兼ねなく利用できるよう無料図書館とする。

現在、このような駅ナカ図書館は日本には存在しないが、スペインのマドリードに「ビブリオ・メトロ」という地下鉄駅構内の図書館施設が存在する。駅構内に突如としてゆるやかなカーブを描く書架ブースが現れ、その看板は青緑・黒・白のスタイリッシュなデザインで、駅利用者の読書欲を刺激する。図書館に行く習慣がない駅利用者も気軽に読書を楽しめる効果が期待される。本を借りて電車に乗るという新しい駅のカタチは、活字好きが多いといわれる日本で、スペイン以上の好評を博するのは間違いないだろう。

宮崎駅が L-station になることにより、考えられる効果が次のとおりだ。

①快適な駅づくりによる利用者の増加
↓
②宮崎市民のコミュニケーションの場として確立
↓
③駅全体の改善・活性化

さらにここから、駅の集客が増え、まちなかへ人が流れることで、中心市街地の活性化に繋がると期待できる。宮崎に、**日本初の駅ナカ図書館、L-station** はいかがだろうか。

plan 02

宮崎でノルディックウォーク！

ジョギングは無理！でもウォーキングじゃ物足りない…

宮崎の魅力を歩いて再発見

皆さんはノルディックウォーキング（以下、NW）をご存知だろうか。NWとは、ノルディックスキー選手の夏場のトレーニングを大衆化したもので、ノルディックと同様に陸上用に改良されたスキーのストックを両手に持って歩くスポーツである。（上写真参照）しかもNWは、ただストックを持って歩くだけで通常のウォーキングよりも高い健康効果が期待でき、顔以外の体全体の90％を使った全身運動を可能にする。また、両手にストックを持つので歩行中のバランスをとることができ、背筋も伸びる。正しい姿勢でウォーキングをすることで通常よりも膝や腰等への負担を軽減でき、老若男女問わず楽しめるニュースポーツとして期待できる。ジョギングは無理、でもウォーキングでは物足りないという人にはうってつけだ。

そこで、私たちはスポーツが盛んな宮崎でのNW振興を提案する。宮崎は、太平洋を流れる暖かい黒潮と冷たい北風を防いでくれる九州山地のおかげでプロスポーツのキャンプ地になるほどの温暖な気候をもち、季節を問わずNWを楽しむことができる立地となっている。

本格的なNWを満喫したい場合は、宮崎市のフェニックスシーガイアリゾートがお薦めだ。ここは、アジア地域で初となる国際認定のNWコースを有し、開催されるイベントには関西・関東圏からも多くの愛好家が訪れている。

さらに、NWは認定コースでなくても十分に楽しめる。例えば、パワースポット。日向神話に出てくる神様「山幸彦」が祀られている宮崎市の青島では、太平洋の水平線を望みながらNWを満喫できる。また、江田神社や加江田渓谷で、木々に囲まれ木漏れ日を浴びながらNWを楽しむのもいいだろう。自然溢れる景観を楽しむだけでなく、神話に思いを馳せながら歩いてみてほしい。

県外からの観光客が自らの足で自然を体感できるスポーツ。そして、県民が、日頃生活しているこの地の魅力を、健康増進しながら再発見できるスポーツ。このNWを、宮崎の魅力浸透の起爆剤として推奨したい。

■記事　広告コミュニケーションゼミ生　一同

CIRCLE DE GOSHiP

今回の噂
「まちなかお花畑サークル」という怪しげなネーミングの団体があるらしい

gosship= ゴシップ＝噂。MMUの部活・サークルに関する噂の真実を調査。

聞き取りから、ある怪しげなサークルにたどり着いた。その名も「まちなかお花畑サークル」。そこで、今回はこのサークルの実態を調査する。まず、何人かの学生にこのサークルのイメージについて聞いてみると「ふわふわしてそう」という答えが返ってきた。恐らく読者の皆さんもこのような漠然とした感じではないだろうか。そこで、記者はこのサークルの部長への直撃インタビューを試みた。

調査 ～直撃インタビュー

まちなかお花畑サークル部長
橋口 由季さん
2年　社会学ゼミ

記者（以下、記）部員は何名いるんですか？
橋口（以下、橋）３６名です。
記　全員、お花が好きなんですか？
橋　ハハハハハ。どうでしょう ^^
記　では街中にお花を植える活動とかしているんですか？
橋　そうではないんです。「まちなかお花畑サークル」はボランティアサークルなんです。宮崎市内のイベント、例えば「街市」や「青島太平洋マラソン」などのスタッフとして参加しているんですよ ^^
記　宮崎市を中心とした「まちなか」でボランティアとして活躍されているんですね。でもなぜ「お花畑」というネーミングが？？？
橋　サークルを立ち上げた先輩達が「ボランティア活動するなら町中をお花畑にしたい！」っていう空想からつけられたそうです。
記　では最後の質問ですが、このサークルに入って良かったと思えることは何ですか？
橋　多くのイベントで普段参加することが出来ない裏方の仕事を体験できたり、様々な業種の人たちとお話することで人脈が広がったりすることが醍醐味だと思っています。また、みんなで１つの目的に向かって作り上げる喜びも体験できます。

▲まつりえれこっちゃみやざきのひとコマ。

調査結果

確かにこの怪しげなネーミングのサークルは実在する。しかし、名前のイメージとは違い、自分たちが住んでいる「まちなか」を盛り上げようと活動していることが分かった。この活動を通じてお花畑のような笑顔あふれる「まちなか」にしていただきたい。

■記事　松岡 奈保子（３年 国際社会・地域経済ゼミ）

宮崎で活躍するサブカルチャー
アーティストを紹介

ミヤザキサブカルメッセンジャー

vol.01
フリーイラストレーター
わたなべありさ

「絵を描いているときが人生で１番楽しい」と語る、フリーイラストレーターのわたなべありさ。MMUの学生の学外活動と接点のある彼女は、今後、宮崎とアートをどう結びつけていくのだろうか。

「アートの魅力に気づいてほしい！」

記者（以下、記）　どのような活動をされているのですか？
わたなべ（以下、わ）「マウス・トゥ・マウス」という４人グループでアート活動をしています。２０１１年から現在では、５月、１１月に若草通りで行われた「文化ストリートアート化計画」、９月に「リサイクルリサイタル」、１１月に「結び」という個展をしました。９月に行われたドマンナカクエストの活動にも参加し、ＭＭＵのボランティアの皆さんと関わる機会がありました。ドマンナカクエストでは、ウェブサイトのトップ画像や役員のツイッターのアイコンを描かせていただきました。ＭＭＵの知り合いの方にこのイベントのことや役員を紹介していただいたので、つながりができました。次回のドマンナカクエストも協力させていただきたいです。２０１２年に入ってからは、３月11日に熊本の「河原町アートの日」に参加し、１８・１９日は宮崎で「ＡＲＩＮＯＳＵ～アリの巣～」というイベントを開催しました。
記　いつから絵を描いているのですか？
わ　幼稚園のときにバスの先生やおばあちゃんに絵を描いてあげていたのが始まりだと思います。小学生までは絵を描くのが「得意」だと思っていました。それが、中学生になると「好き」になり、高校からは絵を「勉強」する意識が出てきました。今ではアイデア帳を持っていて、普段の生活でいきなり絵の構図が頭に浮かんだとき、その手帳にメモするようにしています。それを後から見直して実際にイラストを描いたりします。
記　アートで伝えたいことは何ですか？
わ　それぞれの作品によって伝えたい内容は違いますが、基本的には「内緒」です。だから絵を描くときは、「絵で語る」ようにしています。観ていただく方に想像してもらいたいです。楽しいこと、面白いことを書きたいというのも思っています。必要なときは暗いことも描きますが、楽しいことを描くのが１番です。
記　今後の活動はどのように考えていますか？
わ　絵を勉強するために関東に２年間いましたので、関東に戻ることも考えましたが、今は宮崎が面白いのでこれからも宮崎で活動する予定です。宮崎は人がとても温かくてたくさんの人と様々な場面で関わることが出来ます。そして、アートが身近なものだと知ってほしいです。私の父は「文化や芸術にはお金を払って生きることは大切なことだ」と日頃から言っています。音楽はＣＤを買って聴く、映画は映画館で観るなどのように：。だから私も文化や芸術を大切にしていきたいと考えています。宮崎にアートの魅力を広めてたくさんの人にアートの素晴らしさを知ってほしいので、私は宮崎で今後も活動を続けたいです。

PROFILE：わたなべありさ
1989年9月9日生、宮崎在住　佐土原高校産業デザイン科、横浜美術短期大学卒業

MMU NEWS PLUS

ニュースの内容は、MMUウェブサイトでもご覧頂けます。

Index　H23.8 - H24.1

8 August
7日　MMUキャンパスガイドを開催
8日　交換留学生による論文発表会を開催
5日　有志学生14名が災害ボランティアとして宮城県石巻市で活動（～18日）
20日　卒業生による講演「空気を読む脳」開催
25日　宮元教授が日本運動生理学会賞を受賞

10 October
1日　就職支援室設置
7日　定期公開講座を開催（～18日）
16日　インターネット安全教室を開催
28日　「東南アジア青年の船」団員が来学

11 November
5・6日　凌雲祭開催
8日　学生が中学生に英検面接指導（～11日）
11日　ベルギー出身の世界的ギタリスト、ヤン・デプレーテル氏によるコンサートを開催

12 December
6日　文化系クラブ・サークルによるクリスマスコンサートを開催
14日　東日本大震災の被災地にボランティアで訪れた学生の報告会を開催

1 January
21日　学生保育サポーター報告会を開催

Pickup News

8/7 MMUキャンパスガイド2011を開催

平成23年度は「来て見て感じる公立大」をテーマに、より多くの皆さまにMMUの魅力をお伝えできるイベントとなるように、前年度から内容に変化を加えて開催。６つの講義から２つを受講できる体験授業や在学生と一緒に施設を巡るキャンパスツアー、写真展示コーナーといった従来からの人気企画だけでなく、保護者向け説明会等、よりMMUが詳しくわかる時間を設置。おかげさまで、過去最高の動員数を記録しました。

10/28 「東南アジア青年の船」団員が来学

日本とASEAN各国との共同事業として、11カ国の団員が東南アジア各国を1カ月余りかけて船で回り交流活動を行う「東南アジア青年の船」。その出航前の日本国内プログラムの一環としてMMUへの訪問が実現しました。本学では、全編英語で進行されるディスカッション活動を企画し、会場に集まった普団員とMMU学生、約80人の青年が「地球市民になるためには」をテーマに意見を交換し合いました。

11/8 学生が中学生に英検の面接指導

参加したのは、MMUで英語の教員を目指す、3、4年生20名。宮崎西中学校の昼休みを利用し、学生が面接官役となり、本番さながら1対1での指導を行いました。また、その他の取り組みとして、宮崎西中学校において、2011年8月にサマースクールでの学習支援を、そして2012年2月末には、現場教師の英語学習指導方法や中学生の実態を学ぶ「英語学習アシスタント活動」を行いました。

12/14 東日本大震災被災地ボランティア活動報告会

ボランティアクラブ「SOW（Society Of World citizens）」の呼びかけで集まった14名が東日本大震災の被災地ボランティア活動に参加。発起人である桂原さん（2年）は、出発前、「自分たちにできることを精一杯やり、活動後は現地の状況や自分たちの体験を報告して次につなげたい」と話しました。
活動終了後、参加者の代表により、現地の様子のスライドでの紹介やパネル展示による報告会がありました。

編集後記

―学校で学んだことを一切忘れてしまった時に、なお残っているもの、それこそ教育だ
アルベルト・アインシュタイン―

このたび、大学広報誌作成というプロジェクトに携わった我々（学生・大学職員）は、今後決して忘れないであろう経験を積むことができた。時が過ぎ、たとえ多くの知識を忘れ去ってしまったとしても、広報誌作成に自ら名乗りを挙げた学生たちにとって、今回の経験で身に付いたことが人生のさまざまな場面で役立つはずである。また、学生たちとの共同作業という素晴らしい時間を過ごせた我々職員は、今この時の気持ちをいつまでも忘れずに、より良い大学にすべく今後の業務に取り組んでいかねばならない。学生も職員も共に学べる。こんな形の「教育」がMMUにはある。
兎にも角にも、我々に素晴らしい経験をもたらしてくれた『MMU-SHiP』。本誌を見てMMUに入学するであろう未来のMMU学生たちと共に、これからも成長していくはずである。■担当　赤澤 央臣（図書館司書）

◀学生記者による大盛り上がりの表紙写真撮影

宮崎公立大学　広報誌
MMU SHiP vol.01
2012年3月発行

〒880-8520 宮崎県宮崎市船塚一丁目1－2
電話：0985(20)2000 FAX：0985(20)4820 URL：http://www.miyazaki-mu.ac.jp/
発行者　井上 雄二

未来のcompass

社会で活躍するMMU卒業生に、当時の学生生活や社会人としての近況、今後の展望をインタビュー

製造業×MMU＝海外業務

旭有機材工業株式会社
寺迫 絵美さん

平成21年度卒業生　American Studies ゼミ

宮崎県内では数少ない東京証券取引所一部上場企業である旭有機材工業株式会社に平成22年度4月から勤務している寺迫絵美さんにお話を伺った。

高校時代から英語が大好きで、大学でも英語を学んで将来は海外と触れ合う仕事がしたいと思っていました。それなら宮崎公立大学（以下、MMU）が良いよと先生から薦められ受験したのですが、入学してみると、語学だけでなく情報系にも力を入れている学生もいて驚きましたね。私は常に英語に触れる環境にいたいと思い、外国人教員のニコル先生のゼミに入りました。

2年の後期には就職を意識し、自分に欠けていることは何かと考えた時、コミュニケーション能力だと気づき、人見知りで少し冷めた性格（笑）の私にとっては辛く感じる時もありましたが、できる限り外向き志向でいこう！と決めました。具体的には、友人やアルバイト先の同僚にそれまで以上に積極的に話しかけたり、韓国への異文化実習（※MMUの短期留学制度）に参加したり、就職活動中は同じ業界を志望していたMMUや他大学の学生と情報交換をしたりしました。人脈を作ることも大事ですが、コミュニケーション能力を高め、自分の殻に閉じこもらず、視野を広くすることは、社会人になれば絶対に必要になります。入社後、人事担当者と話す機会がありましたが、マニュアルに書かれていることだけを話す学生が多くて、何処かで聞いたような言葉では何も響いてこないよと仰ってました。自分の経験や考えを自分の言葉で話すことは本当に重要なことで、そのためには学生時代にいろいろなことに積極的に関わり、日頃から自分の頭で考える癖をつけることが必要だと思います。

私自身の就職活動の話をすると、いろいろな業界の会社が集まるセミナーに参加したことは、非常に役に立ちました。第1志望の業界だけに絞るのではなく、他の業界も知ることで、第1志望の業界の良さに改めて気づいたり、知らなかった他の業界の良さを発見することができたりと、本当に視野を広げることができました。また、ネットで企業研究をすることも勿論大事ですが、金銭面と体調面の負担にならない範囲で、できる限りOB・OG訪問などをして、生の声を聞いた方が良いと思いますね。後々面接などで自分の言葉で話す必要がある時に必ず役立つと思います。

現在、会社では中国とオセアニア向けの輸出業務を担当しています。中国の企業とは日本語で業務を行っていますが、オセアニア地域とは英語で業務を行っています。長年培った語学力を生かせる仕事を任せられ、失敗して悔しい思いをしながらも充実した毎日を送っています。海外担当の営業マンが取ってきた注文を日本の工場で製造し輸出するという過程の中で、書類を作成したり、営業と製造の仲介をしたりしながら、滞りなく製品を輸出することが私の任務なので、自分が作った書類を基にして工場から製品が輸出されていく光景を見ていると、お客様の役に立てて良かったなぁと感じます。

製造業・メーカーっていうと、工場とか理系っていうイメージが強いですよね。実際に旭有機材工業株式会社も男女比が9対1です。入社前は正直言って「この会社でどんな仕事ができるのだろう」って不安はありました。しかし、その中でも私の所属する部署は女性が大半で、非常に働きやすい環境です。また、海外業務に実際に携わって初めて、製造業にも文系・事務方が必要だと実感できました。

今後の希望としては海外勤務がしたいですね。非常に風通しが良く、上司が部下の意見によく耳を傾けてくれる社風ですので、入社2年目の社員研修において、会長・社長・役員の前で行ったプレゼンテーションの中で、思わず「できれば英語圏がいいですけど、行かせてくれるなら中国でもどこでも行かせてください！」と言っちゃいました（笑）

■記事　吉松 みなみ（2年 教育学ゼミ）
黒木 れい奈（1年）